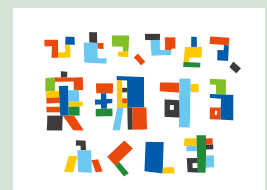


林業福島

No. **733**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



9

2025

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 怪力現れる



期待に応える 苗木供給を目指して！

福島県農林種苗農業協同組合

代表理事組合長 上 原 和 直

福島県農林種苗農業協同組合の業務運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

戦後植栽した人工林が成熟し本格的な収穫期を迎え、近年の需要拡大に伴う伐採が進んでおりますが、その後の再造林は人手不足や不採算性等により進まない状況にあります。これは、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林の循環利用の理念が崩れるばかりでなく、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現にも影響を与えるものと思われます。

国においては、令和六年度から新たな全国森林計画がスタートし、今後十五年間で一三七万五千鈐の人工造林の計画となり、これまでの約二・七倍となる年間約九万一千鈐の造林が計画され、今後、相当量の苗木が必要となることが予想されます。

また、国民の約四割が罹患しているといわれる花粉症を減らすため、国や県を中心とした花粉発生源対策が本格的に始まりました。令和十五年度までにスギ人工林面積の二割について、伐採・植替えを加速化し、花粉の少ないスギ苗木の生産割合を九割以上に引き上げる施策が掲げられたところです。

福島県の民有林においても花粉の発生源となるスギ人工林の伐採や花粉の少ない品種への植替えを重点的に進めていく「スギ人工林伐採重点区域」が設定され、今後はこの区域を中心にスギ林の伐採と植替えが進められることとなります。

当組合におきましては、生産者の高齢化、後継者の育成、労働力不足など様々な課題はありますが、対策に有効となる苗木をできるだけ早く安定的に供給していくことが使命であると考え、花粉の少ないスギ苗木の需要にしっかりと対応できるよう体制整備を進めております。令和四年から花粉が少なく成長が早いスギ特定苗木の出荷を開始し、今年からは少花粉スギ苗木の本格的な出荷を開始しました。その結果、今年には県内で植栽されるスギ苗木の六割以上にあたる五九万本を花粉の少ない苗木として出荷する予定です。また、県の種子生産体制を補完するため、県の支援を受け独自に特定母樹採種園を会津美里町に二二ヶ、南相馬市に七ヶを造成しました。これらの採種園から令和八年より種子を採取し、令和十年秋の特定苗木供給を目指しております。県の林木育種基本計画では令和十四年までに全てのスギ苗木を花粉の少ない品種に切り替えることとしており、当組合としても令和十二年を目標に供給するスギ苗木全てを切り替えていく方針です。

当組合では今後、国や県等による再造林の推進に伴い増加が見込まれる苗木の需要にしっかりと対応できるよう体制を整備するとともに、関係機関・団体と連携を強化し、優良な苗木の安定供給を通じて、森林資源の循環利用と森林の有する多面的機能の高度発揮、地域の活性化に向けた取組に貢献してまいりたいと考えております。皆様の一層のご支援・ご協力をよりしくお願いいたします。

《も く じ》

とびら

期待に応える苗木供給を目指して！

福島県農林種苗農業協同組合

代表理事組合長 上 原 和 直…1

第43回福島県治山林道研究発表会を開催…2

県政コーナー……………3～4

県産材の需要拡大に向けた新製品・新技術の開発・普及への支援

野生きのこの出荷制限状況と非破壊検査

林業信用保証のご案内……………5

第51回福島県緑の少年団大会の開催……………6

林業アカデミーふくしま研修日誌……………7

普及指導員通信……………8

森連だより……………9

福島県林業労働力確保支援センターだより…10

木の文化を育む^⑧……………11

木材市況・ふくしま東西南北……………12

はなしのひろば・お知らせコーナー……………13

第43回福島県治山林道研究発表会を開催

福島県農林水産部森林整備課・森林保全課

福島県では、治山・林道等の森林土木業務に関する技術の研究、会員相互の情報交換や体験等の発表を通じて職員の技術の向上を図り、森林土木事業の発展に寄与することを目的として、標記発表会を開催しています。本年は7月23日(水)に郡山市の林業研究センターで開催しました。各農林事務所や市町村職員など計60名が参加し、治山部門5件、林道部門3件の計8件の発表がありました。

今年は、ICT技術を活用した工事事例の報告や適正な許認可業務の実施に向けた手法の紹介、業務の効率化や調査方法など、業務上の課題や疑問点の解決に向けた取組みなどが発表されました。質疑応答も活発に行われ、活動成果や参考となる事例など貴重な情報の共有が図られました。

また、近年、激甚化・頻発化している自然災害への対応が重要性を増すほか、路網整備では森林資源の充実に伴う効率的な整備が求められております。これらの発表をきっかけに、森林土木業務に関する技術の研究や継承に一層励んでまいります。



主催者あいさつ

発表及び審査結果

(1) 発表内容

No.	所 属	氏 名	部門	題 名
1	県北農林事務所	藤巻 幸歩	治山	地すべり防止区域の点検の継続に向けた課題と解決策
2	県中農林事務所	大関 康二	治山	県中農林事務所管内の風致保安林について
3	森 林 保 全 課	小泉 匡平	治山	林地開発における適切な防災施設の設置について
4	県南農林事務所	椎根 麻友	治山	県南農林事務所における保安林業務効率化に向けた取り組みについて
5	会津農林事務所	白川 浩司	林道	ICT技術を活用した林道開設工事について
6	森 林 整 備 課 相双農林事務所	清水 康暉 佐川 敦	林道	帰還困難区域内の林道における赤色立体地図を用いた被災状況把握の検討について
7	相双農林事務所	遠藤 由都	治山	海岸防災林の整備及び維持管理におけるUAV（ドローン）の活用
8	いわき農林事務所	小野 航太	林道	森林基幹道「永井川前線」全線開通までの道のり

(2) 審査結果

審査員12名により厳正な審査を行い、治山・林道それぞれの部門から全国や北海道・東北地区で行われる発表会の推薦者を決定しました。

【第65回治山研究発表会へ推薦】

森 林 保 全 課 小泉 匡平

【第60回林道研究発表会へ推薦】

森 林 整 備 課 清水 康暉
相双農林事務所 佐川 敦 (共同発表)

【第60回北海道・東北地区治山林道研究発表会へ推薦】

相双農林事務所 遠藤 由都
会津農林事務所 白川 浩司



発 表



表 彰

県政コーナー

福島県林業振興課

県産材の需要拡大に向けた
新製品・新技術の開発・普及への支援

◎木材製品需要拡大技術導入事業

福島県では、木材製品需要拡大技術導入事業において、本県の豊富な森林資源の循環利用と森林環境の適正な保全と持続可能な社会づくりを進めるため、福島県森林環境税を財源に県産材の需要拡大に向けた新用途・新技術の開発や、販路拡大に係る事業計画（プロジェクト）の提案を公募し、優れた事業提案に対し支援をしています。平成二八年度から事業を実施し、令和六年度までで累計三七件のプロジェクトを支援してきました。令和七年度においても二件のプロジェクトを支援しているところです。

◎令和六年度の取組内容

令和六年度は、四件のプロジェクトを支援しましたので、一部の取組内容を紹介します（表―1）。

南会津町の有限会社伊南川木材は、県産広葉樹の用材としての販路を拡大するためエアコンと換気扇による

低コストな簡易型木材乾燥施設を開発し普及のためのデータ収集や情報収集を行いました。開発された簡易型木材乾燥施設では、樹種や形状によりバラツキがあるものの、平均して一〇割程度まで含水率を下げることでできるという結果が得られました。

また、浪江町の株式会社ウッドコアは、地域の集成材を用いた木造建築の定量的な環境負荷評価による更なる木造化推進への取組みを行いました。建築分野においては、ライフサイクル・アセスメントの観点から木材利用による環境負荷削減効果を定量的に評価する取組みが広がっています。そのため、同社が運営を担う、福島高度集成材製造センター（FLAMエフラム）で製造される構造用集成材の単位体積（一立方メートル）あたりのCO₂排出原単位等を把握し、環境影響を透明性高く定量評価するための環境認証ラベル（SUMPO EDP認証）の登録・

令和6年度取組一覧（表―1）

部 門	事業主体	所在市町村	プロジェクト名
新たな製品・技術の開発	有限会社伊南川木材	南会津町	県産広葉樹の利用拡大のための簡易型木材乾燥施設の開発
木材製品の販路拡大	株式会社ウッドコア	浪江町	地域の集成材を用いた木造建築の定量的な環境負荷評価によるさらなる木造化推進への取組
	株式会社光大	本宮市	FSC認証県産材の海外販路拡大と異素材の開発を進めるプロジェクト
	会津桐タンス株式会社	三島町	会津桐及び会津漆・UV漆を活用した製品の国外への販路拡大

公開することで販路拡大を行いました。

◎ふくしまの木待値。

木材製品需要拡大技術導入事業でこれまでに支援した技術や製品の開発や普及するための取組みを広く知ってもらうため、WEBサイト「ふくしまの木待値。」を昨年度作成しました。

開発秘話や事業後の取組みについて取材を行い記事にしています。今後



サイトはこちらから

も順次更新していきますので、御興味のある方は以下の二次元コードからページを御覧ください。



野生きのこの出荷制限状況と非破壊検査

福島県では、東日本大震災における原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響により、基準値（一〇〇Bq/kg）を超過する放射性セシウム濃度が検出された野生きのこ・山菜に

ついては、国から出荷制限が指示されています。

県では、出荷制限解除に向けた検査を進めつつ、非破壊検査による出荷を行っていますので、その現状を

紹介します。

1. 野生きのこの出荷制限状況

野生きのこは、品目毎に出荷が制限されている山菜と異なり、「野生きのこ」として一括りで出荷が制限されています。現在も県内五九市町村のうち五五市町村で出荷が制限されています。

2. 出荷制限解除に向けた調査の状況

出荷制限を解除するためには、「野生きのこ」類等の出荷制限解除に向けた検査等の具体的運用について（平成二七年十一月二〇日付け林野庁林政部経営課長通知）に基づく検査を実施し、放射性セシウム濃度が安定して低水準（食品衛生法で定める一般食品の基準値の概ね二分の一以下）及び低下傾向にあることが確認されてから、国へ申請を行います。

県では毎年、野生きのこの採取シーズンに出荷が制限されている各市町村で野生きのこを採取し、検査を実施する、出荷制限解除に向けた調査を行っています。出荷制限の解除は市町村毎、品目毎であるため時間を要しますが、着実に出荷制限解除に向けた取組を進めており、令和七年八月までに八市町村七品目（表

―1―）が解除されています。

3. 非破壊検査による出荷の状況

令和三年三月に、「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方（平成二三年四月四日原子力災害対策本部）」の中で、「県が定めた出荷・検査方針により、きのこ・山菜類等を適切に管理・検査する体制が整備された場合は、非破壊検査により基準値を下回ったものを出荷することができるとする一部解除の条件が追加され、非破壊検査法による食品中の放射性セシウムスクリーニング法（以下、非破壊検査スクリーニング法という。）が定められました。

非破壊検査は、非破壊検査装置（写真―1―）を用いて、名前のとおり検体を切り刻むことなく検査をし、安全性を確認することができ、検査した検体そのものを出荷できるため、出荷制限が指示されている市町村から採取されたものでも出荷することができ、

野生きのこのうち、非破壊検査スクリーニング法に定められている品目は、まつたけ、なめこ、ならたけ、むきたけ、くりたけです。

県では、まつたけ、なめこ、ならたけ、むきたけについては、令和六

年度までに国へ一部解除を申請をし、非破壊検査で出荷できるよう検査体制を整備しており、令和三年度以降、まつたけ一〇一検体、むきたけ四検体が非破壊検査で安全性を確認し、出荷することができました。

また、くりたけについても非破壊検査による出荷が可能となるよう国と調整を進めています。

4. 今後の見込み

引き続き、野生きのこの出荷制限解除に向けた調査を実施し、検査結果が良好な品目については、国へ申請できるよう取り組んでいきます。

また、今後も非破壊検査スクリー

ニング法の品目が追加されるよう、国及び関係機関との調整を継続していきますので、野生きのこの出荷制限地域の皆様におかれましては、積極的な非破壊検査の活用にご

ついて御検討よろしく願います。



【きのこ】

市町村	品 目	解除年月日
西 会 津 町	ナメコ	H29. 4. 24
会津美里町	ムキタケ	H29. 4. 24
西 会 津 町	ムキタケ	H30. 3. 29
只 見 町	ナメコ、ムキタケ、クリタケ、マイタケ	H30. 3. 29
西 会 津 町	マイタケ	R 1. 9. 5
只 見 町	ナラタケ、ブナハリタケ	R 1. 9. 5
柳 津 町	マイタケ	R 1. 9. 5
三 島 町	マイタケ	R 1. 9. 5
昭 和 村	ムキタケ、マイタケ	R 1. 9. 5
会津若松市	ムキタケ	R 2. 9. 17
会津美里町	ナメコ	R 2. 9. 17
会津若松市	クリタケ	R 3. 8. 24
西 会 津 町	クリタケ	R 3. 9. 29
昭 和 村	ナメコ、クリタケ	R 3. 9. 29
下 郷 町	ムキタケ	R 5. 4. 27
只 見 町	マツタケ	R 5. 8. 8

表－1 出荷制限解除一覧（～令和7年8月）

林業信用保証のご案内

林業・木材産業を営む方を下支えします

独立行政法人農林漁業信用基金

◆林業信用保証の主な特長

林業信用保証は、林業・木材産業を営む方が、銀行等から融資を受けられる際の債務を保証するものです。制度創設以来、約十七万件もの実績があることに加え、全国各地の保証案件を東京都の一拠点ですべて扱っているため、様々な御相談に対応することが可能です。主な特長は次のとおりです。

①事業資金のほとんどが対象

苗木や立木の購入費、燃料費、人件費等の運転資金、建物、林業機械及び木材加工機械の整備等のための設備資金など林業・木材産業の事業用資金全般が対象です。

②林業・木材産業をまとめて保証

造林・育林、素材生産、種苗生産、薪炭生産、きのこ生産といった「林業」だけではなく、木材・木製品製造、木材卸売、木材製品利用（住宅

建築、家具製造等）も対象としているため、伐採と造林の一貫作業、林産複合型経営もまとめて保証することが可能です。

③お得な保証料

保証の御利用に際しては、保証料をいただいておりますが、財務内容に応じて年〇・一五〜一・八〇割以内と低めに設定しています。また、保

証料は日割り計算ですので、無駄がありません。

また、原油価格・物価高騰等へ対応するための保証、新たに林業・木材産業に参入される方への保証などは、最大で五年間の保証料の免除が可能です。

◆林業・木材産業災害復旧対策保証

林業信用保証では、台風、洪水、地震などの自然災害等によって被災された方を支援するため「林業・木材産業災害復旧対策保証」を御用意しています。

災害救助法が適用された災害に加え、最大で五年間の保証料の免除が可能である林野庁長官の指定する災害が対象となっています。

◆おわりに

林業信用保証は、林業・木材産業を営む皆様を下支えする制度です。今回御紹介した「林業・木材産業災害復旧対策保証」のほか、様々なメニューも御用意しています。

また、御利用に係る債務保証の申込みに先立ち、検討している融資機関を通じた事前相談が可能です。是非、林業信用保証を御活用ください。

（お問い合わせ）

林業信用保証管理部

電話 〇三―三四三四―七八二五

林業信用保証のご案内



独立行政法人農林漁業信用基金

パンフレットは信用基金HPからダウンロードできます



信用基金
ホームページ

第51回福島県緑の少年団大会の開催

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

令和七年七月二三日(水)、大玉村農村環境改善センター及びふくしま県民の森において、第五一回福島県緑の少年団大会を開催しました。

本大会は、県内の緑の少年団が一堂に集まり、これまでの緑化活動の実績の発表や交流活動を通して相互に友情と連帯を深め、豊かな人間性と奉仕の精神を培うとともに、緑を愛し、守り、育てる心を養うことを目的に開催するもので、今回で五回目の開催となりました。

午前は、式典を大玉村農村環境改善センターの多目的ホールにて行い、県内少年団十三団一〇名の団員の

ほか、先生、保護者、来賓等を含め約二四〇名の方々にご参加いただきました。当協会石川俊幸副会長の主催者挨拶から始まり、佐藤宏隆福島県副知事(知事代理)、山田平四郎福島県議会副議長(議長代理)、渡邊雅彦大玉村産業建設部長(村長代理)から来賓祝辞、緑の少年団結成五〇周年表彰、第四六回福島県緑の少年団活動コンクールの表彰(受賞団は当協会ホームページに掲載)、活動コンクールで県知事賞を受賞した会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団による活動発表、地元少年団(大山小、玉井小)による誓い

の言葉の順に執り行いました。五〇周年表彰は、緑の少年団を結成されて以降、半世紀にわたり活動を継続されている少年団を表彰するもので、昭和五〇年に結成した泉崎第二小学校緑の少年団が受彰しました。

午後、九団一三二名(先生等含む)がふくしま県民の森に移動し、昼食をはさんで、少年団は班毎に分かれて、NPO法人福島県もりの案内人の会(自然観察)、ふくしま・グリーンフォレストの会(丸太切り)、白河高原薪の会(薪割り)、福島県キャンプ協会(テント設営)の方たちの指導のもと、様々な体験、交流活動を行いました。大会当日は天気にも恵まれて、暑い中での活動となりましたが、それでも少年団の子どもたちは元気よく活動に取り組んでいました。

このように、緑の少年団の活動が受け継がれ、発展してこれましたのはひとえに多くの関係者の皆様のご理解、ご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。今後とも緑の少年団が継続して、より一層活動に取り組みますよう支援してまいります。

〔今大会参加少年団〕

★：50周年

- 大山小学校緑の少年団 (大玉村)
- 大玉村立玉井小学校緑の少年団
- 開成小学校緑の少年団 (郡山市)
- 中郷小学校緑の少年団 (三春町)
- 五箇小学校緑の少年団 (白河市)
- ★泉崎第二小学校緑の少年団 (泉崎村)
- 会津若松市立大戸小学校緑の少年団
- 会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団
- 喜多方市立第一小学校みどりの少年団
- 喜多方市立上三宮小学校みどりの少年団
- 猪苗代小学校緑の少年団 (猪苗代町)
- さくら小学校緑の少年団 (北塩原村)
- 西山小学校緑の少年団 (柳津町)



結成50周年表彰 (泉崎第二小)



活動コンクール表彰 (県知事賞・川南小)



自然観察



丸太切り

林業アカデミーふくしま研修日誌④



○七月の研修内容

七月は傾斜地での下刈り、バックホウやプロセッサの操作、初めての立木伐倒、三日間のインターンシップなど、実践的な研修が本格的に始まりました。

●森林施業「技術」の習得

「下刈り」

七月の一週目は、下刈りを四日間行いました。はじめの二日間は平地で作業を行い、残り二日間は現場をお借りして、苗木や切り株のある傾斜地で作業を行いました。

「周囲測量」

ポケットコンパスとデジタルコンパスを用いた測量を行いました。コンパス測量の原理を理解した上で、デジタルコンパスの仕組みや操作、作業効率の向上を体感しました。

「間伐」

スギ林とヒノキ林で間伐を想定した選木実習を行い、選木のポイントを学びました。

「境界管理」

境界が不明瞭な林分の施業や集約

化に対応するため、境界確認の知識と現地確認の方法を学びました。

「林内路網」

「高性能林業機械運転技術」

二班に分かれ、バックホウを使用したすき取りと敷均し、急斜面の上り下りの反復練習と、プロセッサを使用した基本的な点検や玉切りなどの操作練習を行いました。

「チェーンソー伐木造材技術」

今月は初めて立木の伐倒を行いました。簡易伐倒で日々練習してきましたが、いざ伐倒を行うと倒れ始めるタイミングやくさびを入れるタイミングなど判断に戸惑うことが多く、掛かり木になるなど、多くの課題が見えてきました。

●資格の取得

「小型移動式クレーン運転技術」

木材の積み込み業務などに必要な小型移動式クレーン運転技能講習を受講しました。

●インターンシップの実施等

「社会人教養（ビジネスマナー）」

初めてのインターンシップに備え、職場や地域社会で円滑な意思疎通を

図るための心構えや名刺交換などのマナーについて学びました。

「就業体験（インターンシップ）」

森林組合・林業事業体にご協力をいただき、三日間のインターンシップを実施しました。研修生達は、初めての就業体験で多くを学ぶとともに自分の課題が明らかになったようです。終了後は報告会を開催し、それぞれが体験した仕事やご指導いただいたことを全員で共有し学びを深めました。

○研修生の感想

渡邊 淳（わたなべじゅん）

入講から四か月。ここでの日々は、まさに宝の山です。

講師陣はそれぞれの分野で磨き抜かれた技を持つプロフェッショナル。林業事業体の方々も、忙しい現場の合間を縫い、

私たちの学びのために時間を割いてくださいます。感謝の思いは尽きません。

講義では、初めて知る世界が次々と広がります。時に専門的すぎて戸惑うこともありま

すが、質問すれば丁寧に応えてくださる。その真摯な姿に、林業への誇りと熱意を感じます。

今月のインターンシップでは、夏の下刈り真っ只中の現場に入り、初めて林業の息づかいを肌で感じました。指導の合間、木々や虫の話に耳を傾け、自然の奥深さに心が躍りました。そんな中でいただいた、「ここに就職しなくても、林業に若い人が入ってくれるだけで嬉しい」という言葉は、胸に深く刻まれています。

高齢化や労働条件の厳しさなど、人手不足の課題は依然として重くのしかかります。それでも、ここアカデミーには情熱を惜しまぬ講師や事業体の方々がいます。その想いを受け取り、感謝を忘れず、知識と技術の習得に励み続けます。



下刈り実習



フェリングレバーで掛かり木処理

ICTを活用した森林境界明確化研修会の開催

福島県中農林事務所 林業普及指導員 油 井 竜 太

1 はじめに

県中管内の民有林の約9割が私有林で、それら森林の保有構造は小規模かつ零細です。森林所有者の世代交代や不在村化等から、所有者や境界の特定が困難な森林が多数存在しており、これは森林の集積・集約化を進めるにあたっての大きな問題となっています。その問題の解決手法の一つとしてリモートセンシングデータやICT（情報通信技術）を活用した森林境界の明確化が注目されています。これらの技術により効率的な森林管理や境界紛争の解決を可能になりますが、その課題として、技術導入に向けたノウハウの普及やマンパワー不足の解決に取り組む必要があります。そこで、令和7年7月17日に林業アカデミーふくしまにおいて、管内の市町村や林業事業体等を参集して、航空レーザ測量成果を活用した森林境界明確化や、位置情報を活用した効率的な森林調査手法などを学ぶ研修会を実施しました。



研修会の様子

2 研修会の内容とその成果

(1) オープンデータとスマホを活用した森林境界等の確認手法

森林境界等を現場で簡易的に確認する手法として、公開されている森林情報（オープンデータ）を、スマホに入れて現場に持ち出す手順を紹介しました。具体的には、インターネットから取得した森林計画図や法務局地番図データを、フリーのGISソフト「QGIS」で切り出し、手持ちのスマホに入れたうえで、フリーの地図アプリ（「スーパー地形」など）を使って、民有林の区域や地番境界を表示し、現在位置を確認しながら、現地確認を進める手順を説明しました。これにより、境界や位置の確認が容易になり、現地調査における省力化・効率化につながります。

(2) 航空レーザ測量成果を活用した境界明確化に取り組む事例紹介

実際に境界明確化に取り組む事例を紹介するため、株式会社パスコから講師を招き、他の自治体で進められている森林境界明確化の取組事例の紹介や、「ふくしま森林クラウド」を活用した森林経営管理制度の効率的な管理手法について講演をいただきました。境界を確定するにあたり、過年度に撮影された空中写真の有効利用や、自治体と森林組合、民間の測量会社などが協力し、役割を明確にすることで、境界明確化と森林整備をスピード感をもって進めている取組など、最先端技術を活用することで、境界明確化を強力に推し進めている事例について学びました。福島県でも航空レーザ測量を実施している自治体があるので、それらを有効活用することで森林境界の明確化を進めることができることが分かりました。また、森林経営管理制度を活用した森林整備がなかなか進まないという悩みを持つ市町村が多い中、「ふくしま森林クラウド」の機能を活用し、意向調査結果や進捗状況のデータベース化及び見える化を行うことで、課題解決の有効なツールとなりうることを認識することができました。

3 今後の取組

参加者からは、森林の境界明確化を迅速に進める必要があることを再認識したという声や、他県の先進的な取組を参考に当自治体でも導入を検討したいといった感想が聞かれ、ICT技術を活用した森林境界明確化への関心の高さを実感しました。今後は、実際に航空レーザ測量成果を活用した境界明確化を計画している市町村の支援を行うとともに、他機関（林野庁や県土木部など）で実施している航空レーザ計測成果を集約し、情報提供することで、森林境界の明確化を進め、施業の集積・集約化につなげていきたいと思います。

森連だより

林業アカデミーふくしま

短期研修

「提案型集約化施業

（基礎）・（実践）」



七月二二日から二四日にかけて、当会が林業アカデミーふくしまより委託を受け標記研修の事務局を行いました。

今年度は森林施業プランナーの資格取得を目指す方向けの基礎編が一日、既にプランナーの資格を持ち、皆伐再造林など新たな課題に取り組んでいる方向けの実践編が二日間のスケジュールとなりました。

七月二二日の基礎編では、提案型集約化施業とは何か、森林施業プランナー制度の成り立ち、実際にプランナーとして活躍している有資格者からは、集約化の実務について講義いただき、最後は過去の出題傾向を踏まえた演習問題を解説しながらプランナー試験に向けた研修内容となりました。研修開催一週間前に「森林施業プランナーテキスト令和七年度版」が発売開始となり、全森連プ

ランナー課からは来年度以降の試験では出題範囲が新テキストとなることとが周知されました。

プランナー試験は今年度から全国各地のテストセンターで受験可能なCBT方式に変更となり、受験するハードルは下がりましたが、出題範囲が広がったことにより、来年度に受験される方は過去問が無い状況での受験となりますので、ご注意ください。

七月二三日の実践編では、南会津町を研修地として選定し、スギ材以外の皆伐再造林について考える内容が中心となりました。まず始めに、南会津地区の実情として、南会津森林組合河原田組合長からは、「皆伐再造林への取組はこれからであるが、カラマツ材の高騰により、再造林をせずに皆伐だけが先行してしまっている。加えて、再造林を考慮しない

施業のため、その後の地拵えや植え付けが困難となっている。所有者としても、一度施業が終わってしまっただけでは再造林に対するモチベーションが低くなってしまう」との現状をお話いただきました。

午後の講義では、岩手大学齋藤教授より皆伐再造林に適した作業システム、スギサチ林業事務所大地代表より皆伐再造林先進地として宮崎県を中心とした全国での取組について講義いただきました。参加者から実務的な質問などが休憩時間になっても終わることなく、本県においても本格的に迎える皆伐再造林について、関心の高さが伺えました。

マツが植栽され、講師陣も含め珍しい現場に様々な質疑が交わされました。

午後は研修全体を通しての振り返りを踏まえたグループワークを行い、所属も考え方も様々なことから、闊達な意見交換が行われました。

プランナーに求められる役割が変わりつつある今日ですが、多様な課題に取り組めるように当会はプランナーへのサポートをこれからも続けてまいります。

実践編二日目の七月二四日は、現地研修として南会津町針生地区の皆伐再造林地での現地研修から始まりました。現場は皆伐面積が三〇〇畝を超え、植栽済みの面積も一〇〇畝以上と大規模な皆伐再造林が進められており、再造林では全てカラ



南会津町針生地区 皆伐現場での研修

団体のページ

福島県林業労働力確保支援センターだより 林業就業者育成と雇用管理改善の取組

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センターでは、事業体が林業の持続的かつ健全な発展を担う上で不可欠な、雇用管理改善や就業者確保・育成等の取組を支援しています。

ここでは、今年度これまでに取り組んだ研修等について紹介します。

①「緑の雇用」担い手確保支援事業

（フォレストワーカー研修）

認定林業事業体の新規就業者を対象とし、三年間で体系的に技能と知識の習得が得られるよう全国統一のカリキュラムと研修テキストのもと、集合研修と実地（OJT）研修を実施中です。

七月末現在の研修生は、一年生が二十八名、二年生が二四名、三年生が十九名の計七十一名で、前年度（六九名）から二名の増となっています。

●集合研修

集合研修は、各年の研修生が一箇所に集合し座学や実習、資格取得を行うものです。

今年度のカリキュラムは、一年生が二六日間、二年生が二七日間、三年生が二〇日間で、全体的な日程は、六月三日から始まり、十一月二七日に終了する予定です。

七月末日

までに終了した研修は、一年生では、林業の社会的責任と地域・職場における倫理

・現場作業



機械運転特別教育の受講状況

の安全力・機器メンテナンス・獣害対策、健康管理・普通救命救急の学科、造林・育林・森林調査の実習、刈払機とチェーンソーの特別教育です。

二年生では、現場作業の改善力・機器メンテナンスの学科、造林・育林の実習、走行集材機械の運転に係る特別教育です。

三年生では、現場作業の総合力の学科、伐木等機械・簡易架線集材装置の運転に係る特別教育です。

●実地（OJT）研修

事業体が行う研修（最大八ヶ月間）で、六月一日から開始しています。

県内では、三六の認定事業体で各指導員のもとで行われています。

②「緑の雇用」担い手確保支援事業

（フォレストリーダー研修）

認定林業事業体の就業経験五年以上

の者を対象とし、効率的な現場作業を主導できる現場管理者を育成するため研修を実施中です。

今年度の研修生は十二名で、前年度（十六名）から四名の減となっています。

カリキュラムは、能力向上指導方法や生産性向上のための作業システム等十八項目の座学と、造林作業指揮者安全衛生教育ほか二つの資格取得です。全体的な日程は、七月二日から八月二八日の間で、十七日間となっています。

③林業アカデミーふくしま就業前長期研修

県からの受託事業で、森林作業技術の習得等に係る五講座の講師・実習地の調整を行うとともに、林業の現場を実地に視察する「林業の仕事」を福島県森林組合連合会と共同で四月十一日に行いました。

今後は「森林作業道開設」・「高性能林業機械運転技術」の実習を実施する予定です。

また、七二事業体の情報シートを研修生に提示し、インターンシップ実施調整を行い、

第一回目の

インターン

シップを七

月二八日、

三〇日に行



「林業の仕事」 林業の現場視察状況

アカデミーふくしま大講義室において「就職ガイダンス」を十一事業体の参加により開催しました。

④林業アカデミーふくしま短期研修

「路網整備と作業システム」について、地域における効率的な施業方法等の指導に必要な基礎的な知識・技術の習得及び素材生産性の向上に向けた技術指導に必要な知識・技術の習得を目的として、七月八日・九日の二日間、林業アカデミーふくしま研修施設とふくしま中央森林組合石川事業所の施業地において、参加者十名で実施しました。

⑤森林・林業担い手育成事業

高校生等の職場体験として、県立岩瀬農業高校園芸科の三年生二六名を対象とし、七月十一日に刈払機の作業従事者安全衛生教育の受講を支援しました。

また、九月十六日から十八日には、県立会津農林高校においてチェーンソーの特別教育の受講を支援する予定です。

◎今後の研修事業内容

今後も、「林業就業支援講習（二日間講習）・令和七年十一月十五日、十二日間講習・令和八年一月十五日から三〇日」や「雇用管理研修会・雇用管理改善相談会」、「中堅技術者等の技術向上に関する研修会」、「林業女子会への支援事業」を実施予定です。

逐次広報を行いますので、是非ご参加をお願いします。

木の文化を育む⁽⁷⁸⁾

里山が育む手仕事の知恵 雄国の根まがり竹細工

(竹工房たけや)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

四季折々に表情を変える里山は、古くから人々の暮らしを支えてきました。薪や山菜、きのこなどの恵みに加え、カゴやザルといった生活の道具を生み出す素材もまた、身近な自然から生み出されたものです。福島県喜多方市に位置する雄国では、雪深い山に自生する「根曲がり竹」を活かし、約四〇〇年にわたり竹細工の文化を育んできました。しなやかで強靱な竹を割り、編み込み、暮らしに寄り添う道具へと変える技には、里山と共に生きる人々の知恵が息づいています。

○根曲がり竹細工の継承

雄国に群生する根曲がり竹（学名チシマザサ）は、雪に強く、細身でありながら丈夫な特性を持っています。古くからザルやカゴ、背負い籠など日常の道具に使われ、冬の農閑期を支える手仕事として地域に根づいてきました。

竹工房たけや（喜多方市）で竹製品の製作や体験教室を行っている

佐々木智子さんは、学生時代は大学でプラスチック様素材の研究をしていました。素材の特性を科学的に捉える視点を培った経験は、現在の活動にも生かされています。竹という自然素材に関心を寄せた佐々木さんは、大分県別府市で竹細工を学んだ後、喜多方市へ移住し二〇一六年より三年間、地域おこし協力隊として活動しました。喜多方の雄国地区に江戸時代から伝わる「雄国の根まがり竹細工」の修業に励んだ佐々木さんは、現在その歴史や文化を受け継ぎ、工房での製作や体験教室を通じて多くの人々に竹の魅力を届けています。

○「竹工房たけや」の開業

空き店舗を改修し、二〇二二年三月に開店した「竹工房たけや」では、竹製品の製作や販売のほか、体験教室も実施しています。製作の様子を

見学できるほか、佐々木さんの作品に加えて、別府や喜多方で師事した師匠や仲間作品も展示・販売しています。地域や職人ごとの個性が反映された多彩な竹細工は、人々の暮らしに寄り添う道具として活かされています。「竹工房たけや」は地域の伝統を受け継ぐ拠点にもなっています。

○竹細工体験教室

佐々木さんの工房で実施している「花かご四海波」を編む体験教室では、里山の暮らしや竹細工の伝統を学ぶことができます。「四海波」は謡曲高砂の一節に由来し、四方の波のデザインには世の中の波風が収まり平和が訪れたとする、縁起の良い意味が込められています。また、軽く強く、しなやかで、水に浸すと、より加工しやすくなること、さらに成長が早く持続可能な資源であることなど、参加者は素材としての竹の特徴や扱い方に触れ、竹という自然素材を科学的に知る機会にもなっています。子どもから大人まで、実際に竹に触れ、竹製品を製作することで、地域に伝わる里山の知恵や手仕事の文化を未来へとつないでいます。

○まとめ

雄国の根まがり竹細工は、里山文化の知恵と持続可能な暮らしを象徴

する伝統です。かつて人工素材を研究していた佐々木さんが、今は自然素材の竹に向き合い、その魅力を全国から訪れる人々に懇切丁寧に伝えている姿は印象的です。竹を編む手仕事は、人と自然の共生を示す学びでもあり、佐々木さんの取り組みによって生きた文化として未来へ受け継がれてゆきます。あなたも「花かご四海波」を製作し、暮らしに彩りを添えてみませんか。



「花かご四海波」(小)：制作する花かごの大きさは大小選べます
※体験の材料は真竹



竹細工体験：「竹」にまつわる話をしながら丁寧に製作指導する佐々木さん

県森連いわき共販における木材市況（8月分）

令和7年9月1日
福島県森林組合連合会

（単位：㎡当り千円）

樹 種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
ス ギ	4.00	9 下	12.0	11.5	
		10～13	14.0	13.5	
		24上	13.0	12.0	
	3.65	16上			
		24上	10.5	10.3	
	3.00	9 下	11.5	9.5	
		10～13	10.5	10.3	
		14～16	11.0	9.3	
		18～20	12.8	11.8	
		22上	13.1	12.5	
ヒノキ	4.00	10～13	9.0	8.8	
		14～16	18.1	17.0	
		18～20	18.1	17.0	
		22上	16.0	15.0	
	3.00	16～20	16.1	13.5	
アカマツ	4.80	18～22			
	4.00	18～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	
	3.00	16～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	

樹 種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
カラマツ	4.00	12下			
		13～14			
		16上			
ク リ	4.00	16上	14.0	13.0	
	3.00	16上	13.0	12.0	
モ ミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	9月の共販日
販売量は1,877㎡（前年同月比78%）でした。 スギ3m柱材、中目材とも引き合いあり、売れ行きも好調です。スギ4.00m材も同様です。先行きこの状況が続くと思われます。 スギ3m、4m小径材は入荷が少ない状況です。造材方よろしくお願い致します。	8日(月) 17日(水) 29日(月)

行 事 と お 知 ら せ
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会 木材市況 検索



大屋根リング内部



ハンガリー館外観（奥の建物）

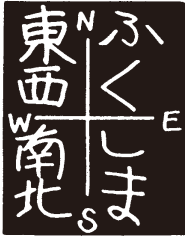
開幕前から何かと話題を振りまき、四月に開幕した大阪・関西万博も終わりが見えてきました。「東北・北海道からの来場者は約一・五割」との報道を目にし、東北地方からの来場者数を少しでも押し上げるべく、会場入りしてきました。

万博会場における福島県産材関連のチェックポイントとしては、(株)ウツドコアが部材を供給した「大屋根リング」、(株)赤井製材所が材を供給し、(株)オノツカがドームの外観を手がけた「ハンガリー館」、福島県産のコナ

ラ材がフェンスとして使用されている「よしもと warai my rai i 館」あたりでしょうか。（なお、(株)赤井製材所は「フィリピン館」にも木製テーブルと棚を納品しています！）

大屋根リングほど報道されていますが、「よしもと warai my rai i 館」の木フェンスには福島県の里山の広葉樹材が使われており、万博終了後はトラック床板として活用予定です（詳しくはパビリオンのHPをご覧ください）。そして、

その床板を用いたトラックは、いわき市内をはじめとした県内も走行予定となっております。開催期間は十月十三日まで。みなさん、まだ間に合いますよ！



大阪・関西万博における
福島県産材レポート

福島県いわき農林事務所 二瓶 郁子

表紙の写真



「怪力現れる」

第21回ふくしま森林・林業写真コンクール
優秀賞(県森林・林業・緑化協会賞)
受賞者 小林正義さん(石川町)
撮影場所: 石川町大字沢井

発行人
飯沼隆宏

編集
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

発行人
飯沼隆宏
陽光社印刷株式会社
(定価 一〇〇円)

はなしの
ひろば

準備

雲の混じり気もない無音の夜空に、赤銅色の少し不気味な赤い月がふと目に入ると、その静かで強烈な存在に一瞬驚くことがある。なかなか暑さが衰えない日中の残暑をよそに、九月の夜の澄んだ空気は、月をより鮮やかに見せ、晩秋まで様々な「秋の月」を目のあたりにすることになる。

気温も、朝晩少しずつ涼しくなってきたので、家では、外していた襖や障子を入れ始めた。お風呂の温度も一度高くし、着るものも、朝晩に羽織る一枚が欲しくなってきた。九月の暮らしは、少しずつ「足していく季節」だ。また、日が落ちると茂みから、もう虫の音も聞こえてくる。まさに、九月は、晩夏と初秋が二層になっているような季節だ。

一方で、福島県の日出入は、九月上旬で、出は約五時、入りは約十八時だが、九月下旬には、出は約五時三〇分、入りは約十七時三〇分である。こんな風に、日照時間が短くなり、気温も下がっていくと、落葉樹は、光合成活動が不活発になり、そろそろ葉を落とす準備に入る。こちら自然界は、少しずつ「引いていく季節」になる。

九月は、それぞれの身を守っていくための準備をする季節といえるのかも知れない。

本格的な心地よい秋には、それぞれ謂われがあつて、スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋、読書の秋などがある。人間の脳が一番活性化される気温は、目安で十四度から十六度らしい。

本格的な秋にむけ、あなたが今から準備をしたいことはなんだろう。

一四八話(都)

お知らせコーナー

●連絡先一覧

事務所名	住所・連絡先
県北農林事務所 (森林林業部)	福島市杉妻町2-16 (福島県庁北庁舎5階) 024-521-2632
県中農林事務所 (森林林業部)	郡山市麓山一丁目1-1 024-935-1367
県南農林事務所 (森林林業部)	棚倉町大字関口上志宝50-1 0247-33-2123
会津農林事務所 (森林林業部)	喜多方市松山町鳥見山字天神6-3 0241-24-5734
南会津農林事務所 (森林林業部)	南会津町田島字根小屋甲4277-1 0241-62-5375
相双農林事務所 (森林林業部)	南相馬市原町区錦町一丁目30 0244-26-4305
富岡林業指導所	富岡町小浜553-2 0240-23-6084
いわき農林事務所 (森林林業部)	いわき市平字梅本15 0246-24-6193

※最新情報は福島県林業振興課ホームページでご確認ください。
(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html>)

野生きのこが発生する季節となりました。国が出荷を制限している市町村から採取された野生きのこは、出荷・販売・加工、飲食店などでの提供、無償譲渡、フリマアプリ等での販売を行うことができませんのでご注意ください。

●野生きのこ出荷制限位置図



● : 出荷制限市町村
● : 出荷制限一部解除市町村
・西会津町 [ナメコ、ムキタケ、マイタケ、クリタケ]、三島町 [マイタケ]、会津美里町 [ムキタケ、ナメコ]、只見町 [ナメコ、ムキタケ、クリタケ、マイタケ、ナラタケ、フナハリタケ、マツタケ]、昭和村 [ムキタケ、マイタケ、クリタケ、ナメコ]、会津若松市 [ムキタケ、クリタケ]、棚田町 [マイタケ]、下郷町 [ムキタケ]
・県内全域 (湯川村、金山町、南会津町、檜枝岐村を除く)
[県の定める出荷・検査方針に基づき検査し、管理されたマツタケ、ナメコ、ムキタケ、ナラタケ]
・いわき市、南相馬市、棚倉町は制限解除も指示

○野生きのこに関する注意喚起

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たちいち

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

林地残材用アタッチメント
グラップルフォーク

GS-90LJF/LJFV

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

- ・フォークが大きく開き、木質バイオマス生産現場での端材の集積に威力を発揮
- ・不要な石を効率良く振るい落とす、格子状のフォーク型トング
- ・手元のノブスイッチだけでグラップルの各操作が簡単・楽に可能

林地残材の集積に威力を発揮するフォーク型特殊グラップル

※本機は林地残材集積用です。掘削、地盤作業には使用しないでください

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6

TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699

(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1

(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1